れているに過ぎない。

さて，福島県においては中間温帯，ないし，暖帯落葉広葉樹林帯がどの程度の拡がりをみせるものか，まずその南限，すなわち常緑広葉樹林帯の北限の実態からみて行くことにする。

イ） 常緑広葉樹林の輪郭

福島県の常緑広葉樹林帯を丹念に調査し，その輪郭を明らかにしたのは吉岡（1954b, 1956）である。それによると，スダジイの残存林分は石城海岸低地の一帯に広く散見される。このスダジイ林地帯の北の端は，いわき市久ノ浜町末続（すえつぐ）になる。なお，近年になって原町市江井（えねい）の初発神社の境内に数本のスダジイが成育しているのが知られた。このことから，スダジイは末続以北でも条件さえ良ければ断続的に小さな林分を形成すると考えられる。スダジイ林地帯の西の端は，いわき市田人井戸沢（標高 60 m），いわき市小川町上小川（同 60 m）などになる。

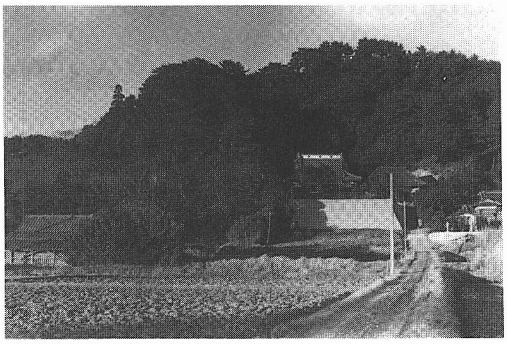

図 16　末続寺とその境内林（いわき市久ノ浜町）
寺の裏山がスダジイ林になっている。

これらスダジイ林にはアカガシも成育するが，アカガシは末続以北にも散見され相馬市に及ぶ。内陸側への侵入はウラジロガシの例が多く，石城地方では，例えば鮫川沿いに東白川郡古殿町の東部（標高 280 m）まで，また，相双地方では，例えば室原川沿いに賀老（標高 100 m）までみられるという。近年の調査によれば，スダジイ林内にアカガシとともにふつうにみられるシラカシは，さらに内陸に及び，福島市信夫山（標高 200 m），安達郡東和町木幡山の山麓（標高 500 m）までみられる。恐らく，条件さえ良ければ温暖帯の全域に成育するものと思われる。

上記の実態は，さきにのべた吉良説に，概括的にではあるが，よく合致する。すなわち，福島県域の標高およそ 100 m までがスダジイの成育範囲に入り，典型的な常緑広葉樹林帯とみなされる。それは福島県の海岸沿いの平地及び丘陵の地帯である。そして，標高 400～500 m までが暖帯落葉広葉樹林帯であり，ここでは，冬季温暖な山懐ではしばしばカシ類の自生をみると概括することができるであろう。

ロ） 温帯落葉広葉樹林の輪郭

温帯落葉広葉樹林帯の指標は，その地帯に気候的極相として成立しているブナ林である。このブナ林の分布域の下限が中間温帯林地帯の上限となる。福島県ないし東北地方南部で，このあた